

# 1 5つの視点からみた課題

福生市の緑と水を考えるための5つの視点から捉えた緑と水の現況をもとに、福生市の緑と水の課題を整理します。

## (1) 空から見た緑と水

### ① 自然性の高い緑と水の保全、まちなかの緑の創出と整備

多摩川周辺と崖線、玉川上水を除き、市内に、緑と水の空間はあまり多くありません。樹林や原野・草地が減少している一方、公園・緑地の緑と水は増加していますが、公園や駅前、道路沿い等、まちなかの緑について、市民アンケートでは、現状よりも増やしたいという声が多くあがっています<sup>※P.26 ⑤</sup>。市内に残る自然性の高い緑と水を保全していくことに加えて、まちなかの緑を、利用ニーズを踏まえ、樹木の更新等を進めながら、創出・整備していく必要があります。

### ② 住宅地や商業・工業用地において緑と水を増やすための支援とその手法の検討

住宅地や商業・工業用地においても、できるだけ緑と水を増やしていく必要があります。事業者への呼びかけや、「保存樹林地等奨励金制度」の活用など緑化の支援を継続していくことが重要です。また、住宅地の緑と水について、市民アンケートでは、一戸建住宅のほうが集合住宅に住んでいる市民よりも自宅周辺に緑が多いと感じており<sup>※P.26 ⑩</sup>、緑と水の取組みへの参加割合も高くなっています<sup>※P.26 ⑪</sup>。集合住宅に住んでいる市民にも緑と触れ合ってもらえるよう、限られたスペースで樹木や草花等の緑に対して、気軽に親しんでもらう手法を検討する必要があります。

## (2) 利用できる緑と水

### ① 市民農園等の活用とその手法の検討、遊歩道や歩道等の整備

緑と水の空間があるだけでなく、利用できる空間の存在が、そのまちで暮らす市民の緑と水への身近さにつながります。市民アンケートでは、公園を利用する理由として、自宅からの近さをあげる声が多く<sup>※P.26 ⑥</sup>、身近なレクリエーション空間の適切な整備と配置を改めて検討する必要があります。また、アンケートで若い世代が市民農園を利用してみたいと回答する割合が高い<sup>※P.26 ⑨</sup>ことから、身近な農地として市民農園の活用、拡大について検討が必要です。自然体験イベントや環境学習等の場として整備・活用するなど、市民が緑と水をより利用しやすくするための手法を検討することが重要です。

多摩川や玉川上水沿いの遊歩道は、市民が緑と水に気軽に親しむことができるとともに公園やレクリエーション施設を結ぶネットワークとして重要です。緑と水のふれあい方に散歩が最も多くあげられている<sup>※P.26 ③</sup>一方、遊歩道や歩道等が少ないと感じている市民の声が多い<sup>※P.26 ②</sup>ことから、遊歩道や歩道等に沿った緑と水の維持管理を継続しながら、新たなネットワークの形成と、緑と水と一体の遊歩道や歩道等の整備の検討が必要です。

- ② 様々な世代のニーズに合わせた整備の促進、市民と協働での効率的な維持管理  
様々な世代の利用ニーズに合わせ、老朽化への対応やユニバーサルデザイン<sup>※P.102 用語解説</sup>の考え方に基づくバリアフリー化、高齢者が利用できる健康器具の設置、マナー向上や生き物への理解醸成を図った看板等の設置などの整備・改修が必要です。また、公園ボランティアとの協働など、今後も市民の協力を得ながら効率的な維持管理を進める必要があります。

### (3) 生き物の生活を支える緑と水

- ① 生物多様性の視点をもった緑地の保全・維持管理と自然体験の場としての活用  
立川崖線にはクヌギやコナラなどの落葉広葉樹林が、拝島崖線には湧水を支えるシラカシなどの常緑広葉樹林が形成され、多摩川河川敷でも、豊かな自然環境が広がり、多くの生き物が暮らしています。

市民アンケートでは、緑と水に、生き物の生活の場としての役割を期待する声が多くありました<sup>※P.26 ④</sup>。また、多摩川や玉川上水、分水と一体となった樹林地等の水辺環境、市街地を南北に貫く立川崖線と拝島崖線のシイ・カシやコナラなどの多様な植生を有する樹林を、多様な生き物の生活の場として守りたいという市民の声も多くありました<sup>※P.26 ⑤</sup>。生物多様性の確保の視点が、市民にも広がりつつある福生市では、生き物の生活の場である自然性の高い緑と水を、生物多様性の確保という視点を持ちながら、自然体験や環境教育の場として利用しつつ、将来にわたって保全・維持管理をしていくことが重要です。生き物の環境に配慮した緑地の整備や、生物多様性の重要性を考えるイベント等の開催による自然体験や環境教育の機会づくり、そのための仕組みづくりをしていくことが必要です。

- ② 公園や道路沿いの緑など生き物の移動経路となる空間の整備

公園や道路沿いなど、まちなかの緑も、生き物の移動経路としての整備が求められます。街路樹や生け垣の設置、建物の緑化を進め、生き物の移動経路が分断されないようなまちづくりをしていく必要があります。生物多様性の確保に配慮しながら緑化や維持管理を進め、公園では、生物の移動経路や生息・生育地となるピオトープ等の整備と維持管理を進めることも重要です。

## (4) 安全・安心を支える緑と水

### ① 公園、農地や崖線の維持管理と雨水浸透施設の設置等による健全な水循環の確保

近年の都市化の進展に伴う人工被覆面の増加による雨水浸透率の低下や豪雨の頻発化等によって、浸水被害のリスクが高まっています。また、比較的勾配が大きな崖線は土砂崩れが発生する恐れがあります。災害に備え、公園や農地、崖線に残る樹林地などの自然面の保全・維持管理による涵養機能の確保や、雨水浸透施設の設置による健全な水循環の確保が重要となります。

### ② 駅周辺などのまちなかの防災性の向上を図った空地の確保と緑化の推進

福生市は、低層住居が市街化区域の半数近くを占めていますが、駅周辺は住宅や商業施設などが密集しています。このような場所では、オープンスペースや緑と水の空間が、地震や水害等の災害発生時に避難所や焼け止まりとなるなど被害を軽減する役割を果たします。建物の新築・建替えの際に、空地の確保や緑化を進めることが求められます。

### ③ 公園等での防災施設の充実や避難経路となる街路樹の維持管理の推進

避難場所に指定されている公園や学校等においては、防災機能の向上を図るため、防災施設を充実させ、オープンスペースを確保する必要があります。防災協力農地をはじめとする農地が、災害時に、防災の役割を十分に発揮できるよう、所有者の協力を得ながら、日常的な維持管理・利用を継続していく必要があります。

また、避難経路となる道路沿いにおいても、緑の持つ延焼防止機能を効果的に発揮するため、街路樹の維持管理を継続する必要があります。

## (5) 快適で豊かな暮らしを支える緑と水

### ① 代表的な緑と水の景観の保全、地域性・歴史の継承のための手法の検討

福生市には、「ふっさ十景」に代表されるように、多摩川と河川敷、社寺林、玉川上水や崖線沿いの公園や樹林地など、各地域を特徴づけ、緑と水に密接に関係する景観が市内各所にみられます。福生市での暮らしが、緑と水に彩られ、快適なものとなるためには、これらの緑と水の景観を良好に保っていくことが必要です。特に、玉川上水や熊川分水、福生分水、社寺林など、これまでの歴史の中で、人々が関わり合いながら保全・活用し、また愛してきた緑と水があります。そのような緑と水が、次世代にも引き継がれるよう、地域性や歴史とともに伝えていくための取組みが必要です。

### ② まちの魅力向上と清涼感を供給する緑の配置

まちなかの農地や住宅、駅周辺、道路沿いにおいても、やすらぎと涼を感じる景観が形成されるよう、よく管理された質の高い緑の維持、緑化を進めることが重要です。駅前や商店街などには、まちの魅力が向上し、また涼しげな空間となるよう、植栽する草花や樹木の種類に配慮しながら、街路樹などの緑を配置していく必要があります。